

FUJITEC



2019年3月期
決算説明会
2019年5月24日(金)

フジテック株式会社

- 1. 2019年3月期 通期実績**
- 2. 新中期経営計画について**
- 3. 2020年3月期 通期業績予想**

1. 2019年3月期 通期実績

1-1. 連結決算の概要

2期連続の増収、純利益は過去最高を更新

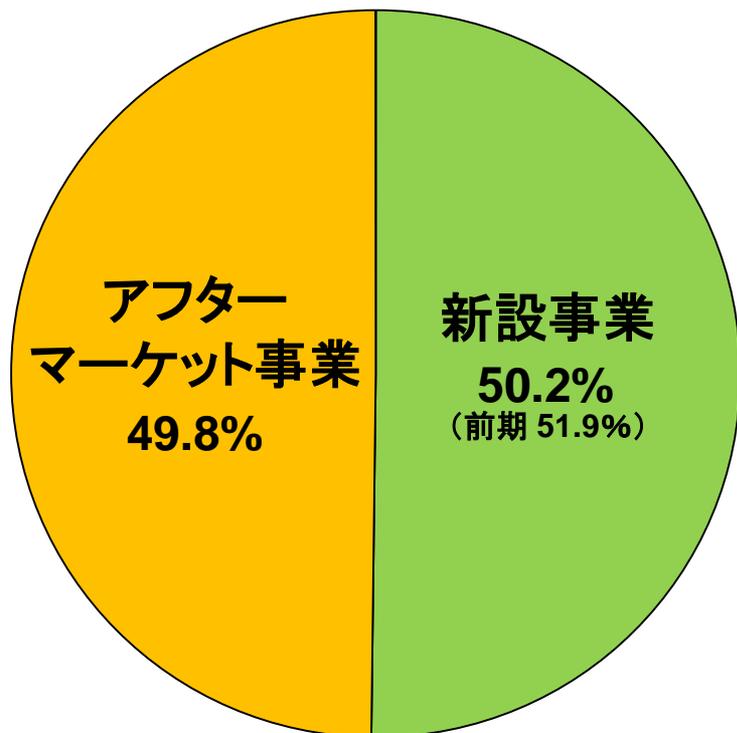
(単位:百万円)

	2019/3 (通期)	構成比 (利益率)	期初計画	2018/3 (通期)	構成比 (利益率)	増減 (前期比)
受注高	179,007	100.0%	—	182,023	100.0%	△1.7%
国内	74,408	41.6%	—	68,094	37.4%	+9.3%
海外	104,599	58.4%	—	113,929	62.6%	△8.2%
売上高	170,759	100.0%	170,000	168,795	100.0%	+1.2%
国内	69,050	40.4%	—	64,935	38.5%	+6.3%
海外	101,708	59.6%	—	103,860	61.5%	△2.1%
営業利益	10,313	6.0%	10,300	10,665	6.3%	△3.3%
経常利益	11,922	7.0%	11,000	11,911	7.1%	+0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,220	5.4%	8,300	8,857	5.2%	+4.1%
EPS	114.14円	—	102.90円	109.82円	—	+4.32円

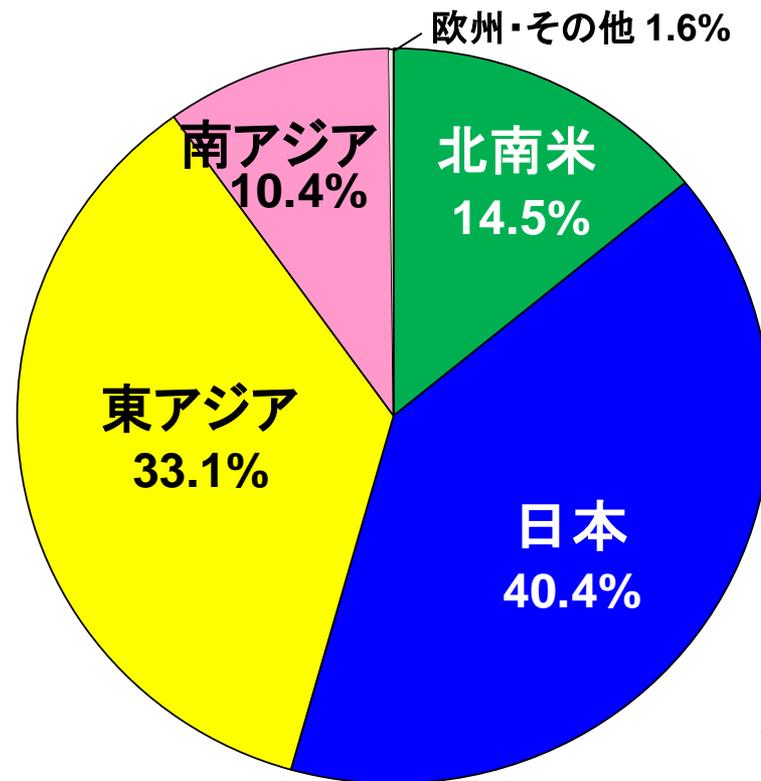
平均為替レート：19/3期：1米ドル110円、18/3期：1米ドル112円

海外の売上高構成は、前期とほぼ同率

事業別売上高



地域別売上高



1-3. セグメント別売上高・営業利益

日本は増収減益。東アジア・北米は前期並み

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2019/3 (通期)	2018/3 (通期)	増減%	2019/3 (通期)	2018/3 (通期)	増減額
日本	72,485	67,646	+7.2%	5,206	5,728	△522
東アジア	69,308	70,442	△1.6%	2,269	2,257	+12
南アジア	16,572	17,191	△3.6%	1,851	1,936	△84
北米	23,721	23,871	△0.6%	936	920	+16
欧州	323	511	△36.6%	△43	△67	+24
小計	182,411	179,662	+1.5%	10,220	10,774	△554
調整額	△11,652	△10,867	—	92	△109	+202
合計	170,759	168,795	+1.2%	10,313	10,665	△351

平均為替レート：19/3期：1米ドル110円、18/3期：1米ドル112円

1-4. セグメント別概況(日本)

売上高は3期連続で過去最高を更新

(単位:百万円)

	2019/3(通期)	2018/3(通期)	増減
売上高	72,485	67,646	+7.2%
営業利益	5,206	5,728	△9.1%
営業利益率	7.2%	8.5%	△1.3P

受注

- ・大型開発案件が続く首都圏を中心に、新設受注は大幅に増加
- ・モダニゼーション受注も総じて堅調に推移

売上高・営業利益

- ・新設、アフターマーケット事業ともに増加し増収
- ・人件費などの固定費の増加、業務輻輳による物流費の増加で減益

中国の採算が改善

(単位:百万円)

	2019/3(通期)	2018/3(通期)	増減
売上高	69,308	70,442	△1.6%
営業利益	2,269	2,257	+0.5%
営業利益率	3.3%	3.2%	+0.1P

受注

- ・中国の新設需要は底堅く推移。厳しい価格競争が継続
- ・中国の新設受注は大きく減少

売上高・営業利益

- ・中国、台湾は増収ながら、香港、韓国が減収
- ・韓国の輸出採算が低下。中国の新設工事の採算が改善

1-4. セグメント別概況(南アジア)

主にシンガポールの影響で減収減益

(単位:百万円)

	2019/3(通期)	2018/3(通期)	増減
売上高	16,572	17,191	△3.6%
営業利益	1,851	1,936	△4.4%
営業利益率	11.2%	11.3%	△0.1P

受注

- ・需要は底堅く推移。特にインドは受注が大幅に増加

売上高・営業利益

- ・シンガポールは民間セクターの需要低迷により減収減益
- ・マレーシア、インドネシアは増益
- ・インドは増収ながら、経費などの増加で損益は前期並み

1-4. セグメント別概況(北米・欧州)

北米はアフターマーケットが増加。欧州は黒字化至らず

(単位:百万円)

北米	2019/3 (通期)	2018/3 (通期)	増減
売上高	23,721	23,871	△0.6%
営業利益	936	920	+1.8%
営業利益率	3.9%	3.9%	—

(単位:百万円)

欧州	2019/3 (通期)	2018/3 (通期)	増減
売上高	323	511	△36.6%
営業利益	△43	△67	—
営業利益率	—	—	—

受注

- ・米国は景気の拡大もあり、需要は底堅く推移
- ・カナダは、受注好調

売上高・営業利益

- ・米国で新設事業が減少した一方、アフターマーケット事業が増加
- ・前期にドイツ子会社を売却し減収
- ・英国は新設事業が低調

2. 新中期経営計画について

FUJITEC

Innovation, Quality & Speed

中期経営計画 2019-2021年度

行動ビジョン

- グローバル標準機種種の拡販と収益の向上
- 企業成長と企業価値を高める技術基盤の強化
- 顧客ニーズの変化・スピードに対応したプロセス革新
- 経営品質の向上、SDGsへの取組み

新中期経営計画

“Innovation, Quality & Speed”

経営の基本方針

グローバルで、お客さまの信頼に応える安全・安心な商品を提供し、
持続的成長と企業価値向上を目指します。

最終年度の経営目標（連結）

売上高	1 8 0 0 億円	(2019年3月期比+5.4%)
営業利益	1 3 0 億円	(2019年3月期比+26.1%)
営業利益率	7.2 %	(2019年3月期比+1.2ポイント)
ROE	8.0%以上	

※平均為替レート：19/3期：1米ドル110円、22/3期：1米ドル105円

2-2. セグメント別計画

全セグメントで増益を計画

(単位:百万円)

	2019/3		
	売上高	営業利益	利益率
日本	72,485	5,206	7.2%
東アジア	69,308	2,269	3.3%
南アジア	16,572	1,851	11.2%
北米・欧州	24,045	893	3.7%
小計	182,411	10,220	5.6%
消去	△11,652	92	-
合計(連結)	170,759	10,313	6.0%

※為替レート:1米ドル110円

(単位:百万円)

	2022/3		
	売上高	営業利益	利益率
日本	75,000	6,200	8.3%
東アジア	69,000	3,500	5.1%
南アジア	21,000	2,100	10.0%
北米・欧州	28,000	1,400	5.0%
小計	193,000	13,200	6.8%
消去	△13,000	△200	-
合計(連結)	180,000	13,000	7.2%

※計画為替レート:1米ドル105円

※2019年度より、従来の報告セグメント「北米」「欧州」を集約し、「北米・欧州」に変更しています。比較のため、2018年度は変更後のセグメント区分で記載しています。

1

地域戦略

“グローバル標準機種種の拡販と収益の向上”

- ・顧客ニーズに応える付加価値の提供
- ・市場シェア拡大によるフジテックブランドの浸透

2

商品・技術戦略

“企業成長と企業価値を高める技術基盤の強化”

- ・商品競争力と業務品質の向上
- ・独自先進技術開発による付加価値創出

3

オペレーション戦略

“顧客ニーズの変化・スピードに対応したプロセス革新”

- ・自動化・省人化によるものづくり改革
- ・グループ最適な生産・物流体制の構築

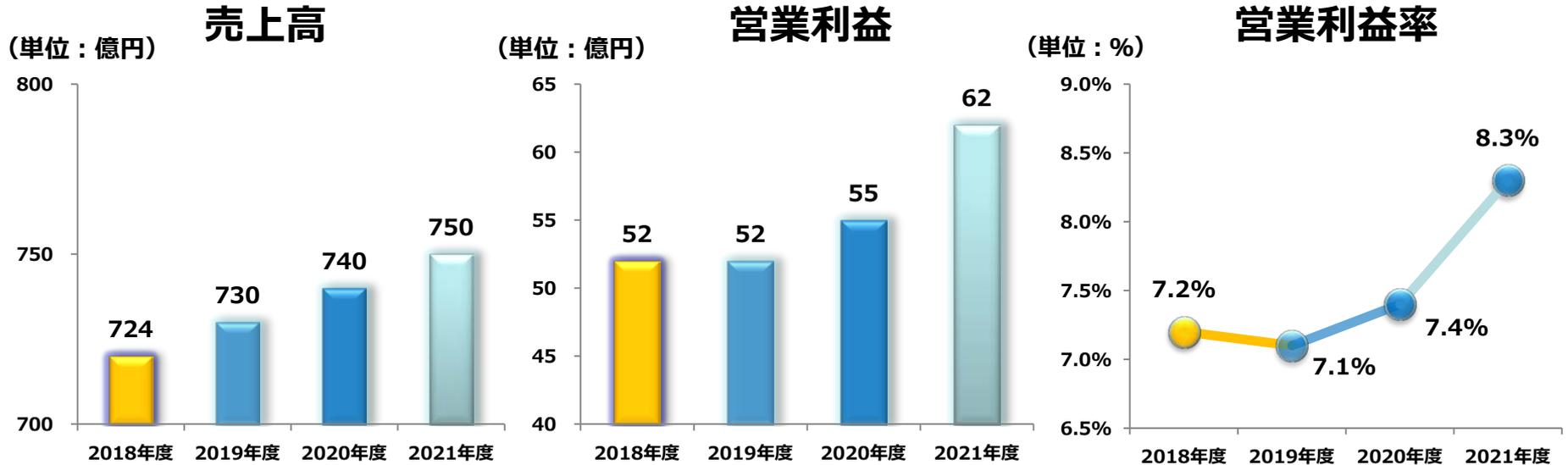
4

コーポレート戦略

“経営品質の向上、SDGsへの取組み”

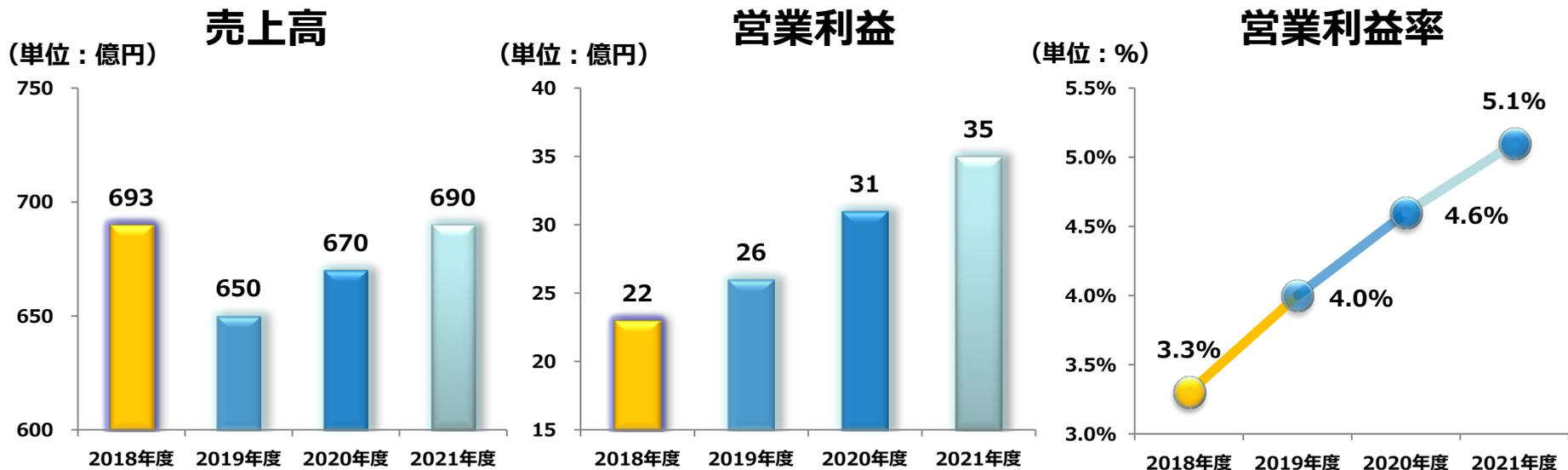
- ・経営資源の適正配分
- ・資本コストを意識した資本政策

2-4. 地域戦略(日本)



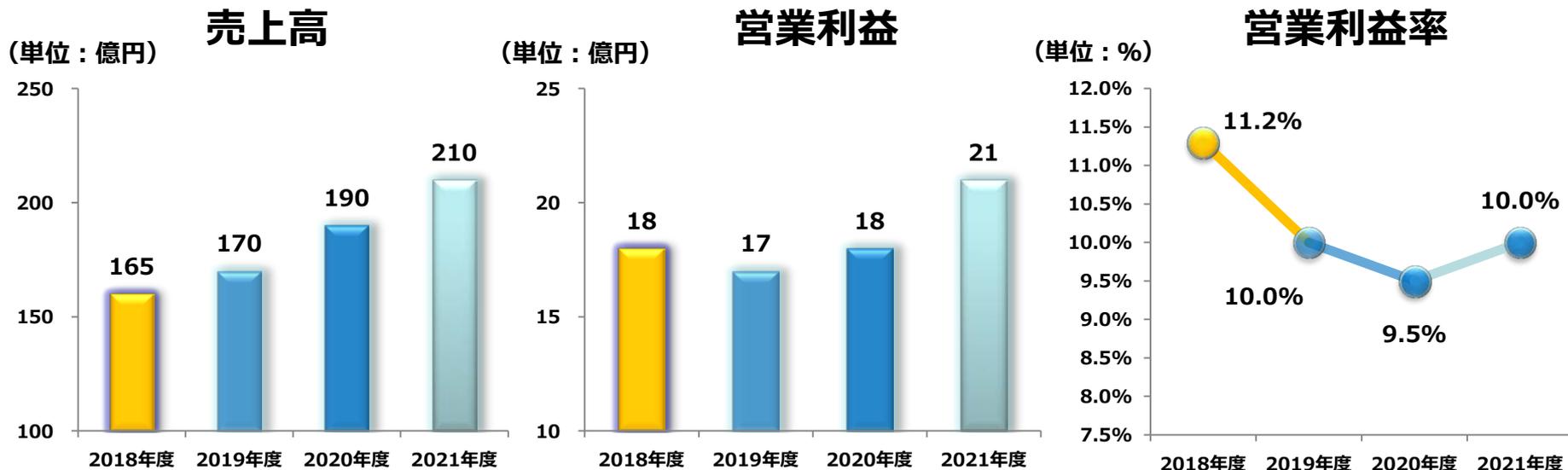
- ・新設事業は、市場価値の高い新設物件の受注により、ブランド力を更に向上
- ・新標準型エレベータの販売を開始
- ・モダニゼーション事業は、持続的成長を維持
- ・保守事業は、デジタル化によるメンテナンスの高度化により、収益力を強化

2-4. 地域戦略(東アジア)



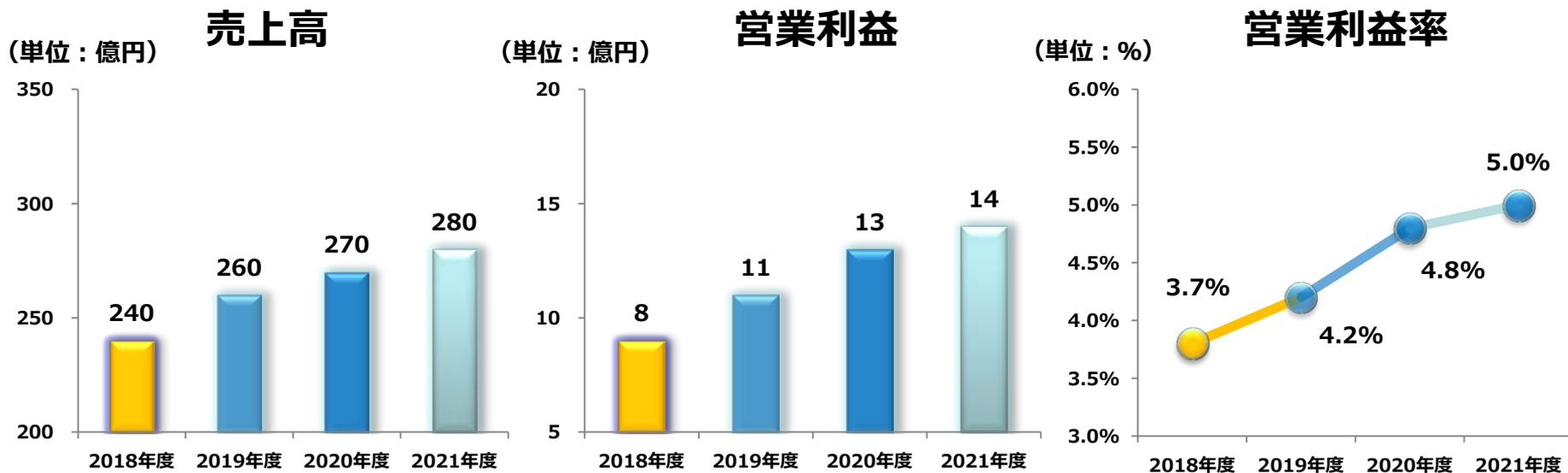
- ・中国は、価格競争力の更なる強化により、新設事業の拡大と利益率改善を両立
- ・香港、台湾、韓国はモダニゼーション事業を中心としたアフターマーケットに注力

2-4. 地域戦略(南アジア)



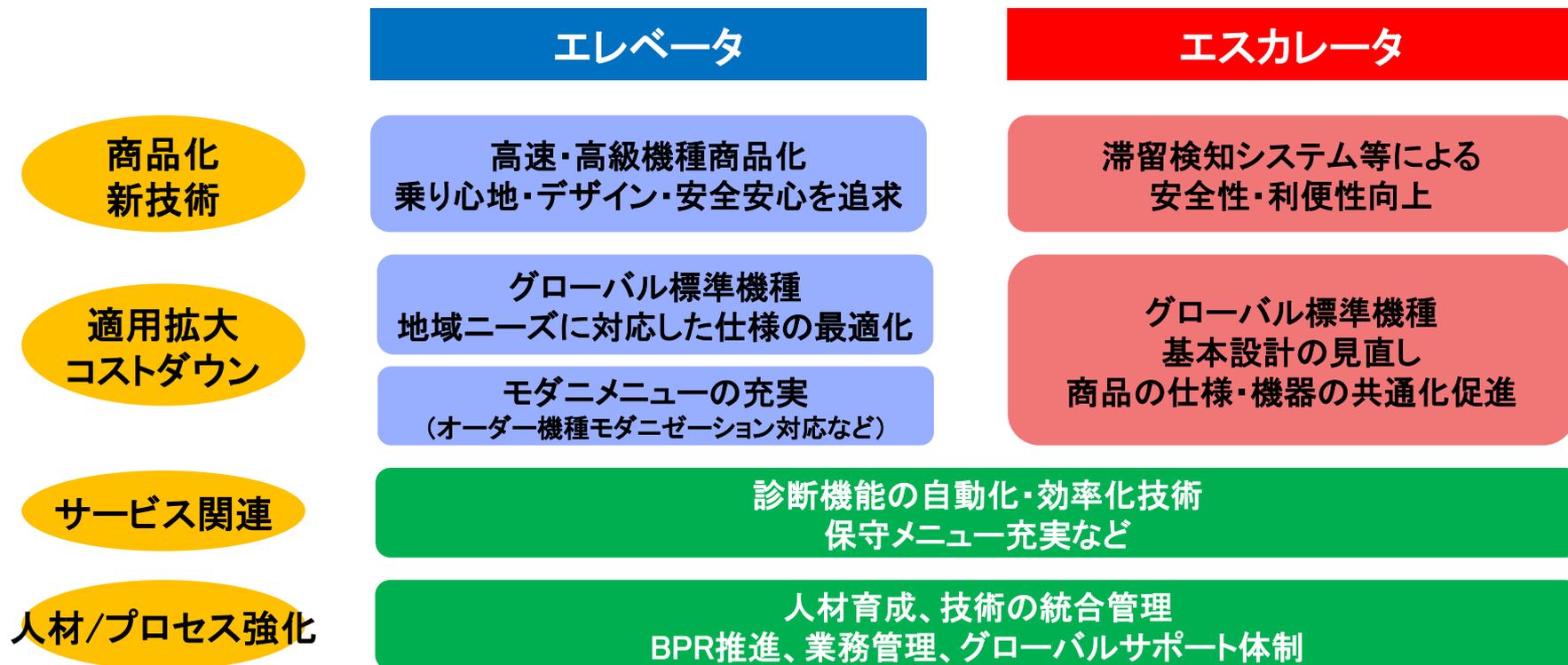
- ・アセアン地域ならびにインド、メコン川流域に経営資源を引き続き投入
- ・インドを軸とした域内サプライチェーンの整備、商品供給体制の強化により成長持続
- ・インドから輸出拡大(域内強化からスタート)
- ・シンガポールの人材研修機能を充実させ、サービス品質を更に向上

2-4. 地域戦略(北米・欧州)



- ・北米：新設・モダニゼーション事業は規模拡大、保守は基盤強化で利益率改善
- ・欧州：新設・モダニゼーション事業に注力し、収益基盤を構築

商品競争力と業務品質の向上。独自先進技術開発による付加価値創出



自動化・省人化によるものづくり改革。グループ最適な生産・物流体制の構築

ものづくり改革
自動化・省人化

グループ最適化
キャパシティー拡大
物流改善

- AI、IoT等デジタル技術も駆使した拠点連携の高度化
- QCD基盤の統一

- 自動化・省人化、生産キャパシティー拡大
国内自動化生産体制による効率化追求
インドにおける増産体制の確立
- 各拠点のデポ機能改善
東京デポ、大阪デポによる効率的サプライチェーン構築
- グローバル購買機能の充実

安全・安心
の追求

経営資源の適正配分。資本コストを意識した資本政策

経営品質の向上

- ・コーポレートガバナンス方針に基づく透明性確保
- ・コーポレートガバナンス体制の強化
- ・IR活動の強化

経営資源の適正配分

資本コストを意識した
資本政策

- ・内部成長に向けた設備投資、人材開発投資の推進
- ・外部成長に向けたM&Aの機会を追求
- ・経営基盤の長期的安定を図る内部留保と株主への利益還元への配慮

SDGsへの取組みを開始

テーマ	事業内容	環境・社会との繋がり
コーポレートガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制システム有効稼働 ・リスクマネジメントシステムの有効稼働 	<ul style="list-style-type: none"> ・フジテックの諸理念を誠実に実現
デジタル化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・業務システムの連携、統合、自動化 ・AI、IoT等の活用によるサービスの自動化・QCD最適化 	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い社会インフラを整備 ・業務改革で働き方改革
環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ・ENコードに準拠 ・保守、モダニゼーションの推進 ・ロジスティックの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材は環境規制に高度適合 ・最新技術により省エネ実現 ・故障復旧出勤、ロジスティックの改善は環境負荷減
グローバル人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・エクスペリエンスセンター ・東京、シンガポールでサービス品質向上に繋げる人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の追求による質の高い社会インフラを整備



3. 2020年3月期 通期業績予想

FUJITEC

Innovation, Quality & Speed

中期経営計画 2019-2021年度

行動ビジョン

- グローバル標準機種種の拡販と収益の向上
- 企業成長と企業価値を高める技術基盤の強化
- 顧客ニーズの変化・スピードに対応したプロセス革新
- 経営品質の向上、SDGsへの取組み

3-1. 2020年3月期連結業績予想

中計初年度は円高を前提に、前期と同水準

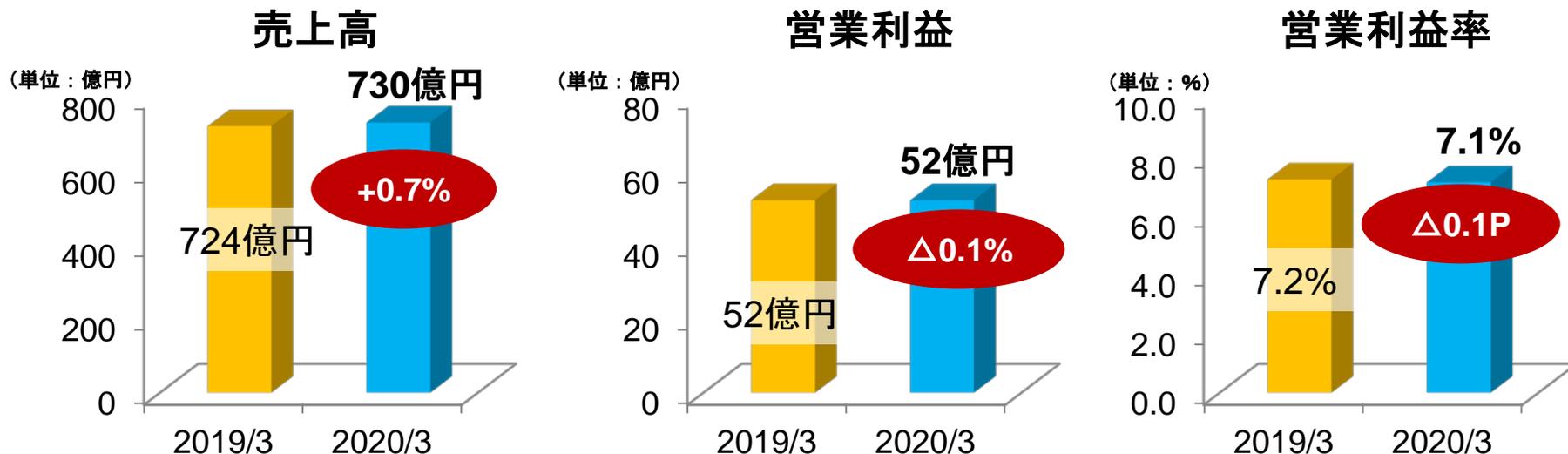
(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2020/3 (通期)	2019/3 (通期)	増減%	2020/3 (通期)	2019/3 (通期)	増減額
日 本	73,000	72,485	+0.7%	5,200	5,206	△6
東 ア ジ ア	65,000	69,308	△6.2%	2,600	2,269	+330
南 ア ジ ア	17,000	16,572	+2.6%	1,700	1,851	△151
北米・欧州	26,000	24,045	+8.1%	1,100	893	+206
小 計	181,000	182,411	△0.8%	10,600	10,220	+379
調 整 額	△10,000	△11,652	—	△200	92	△292
合 計	171,000	170,759	+0.1%	10,400	10,313	+86

平均為替レート：20/3期：1米ドル105円、19/3期：1米ドル110円

3-2. セグメント別予想(日本)

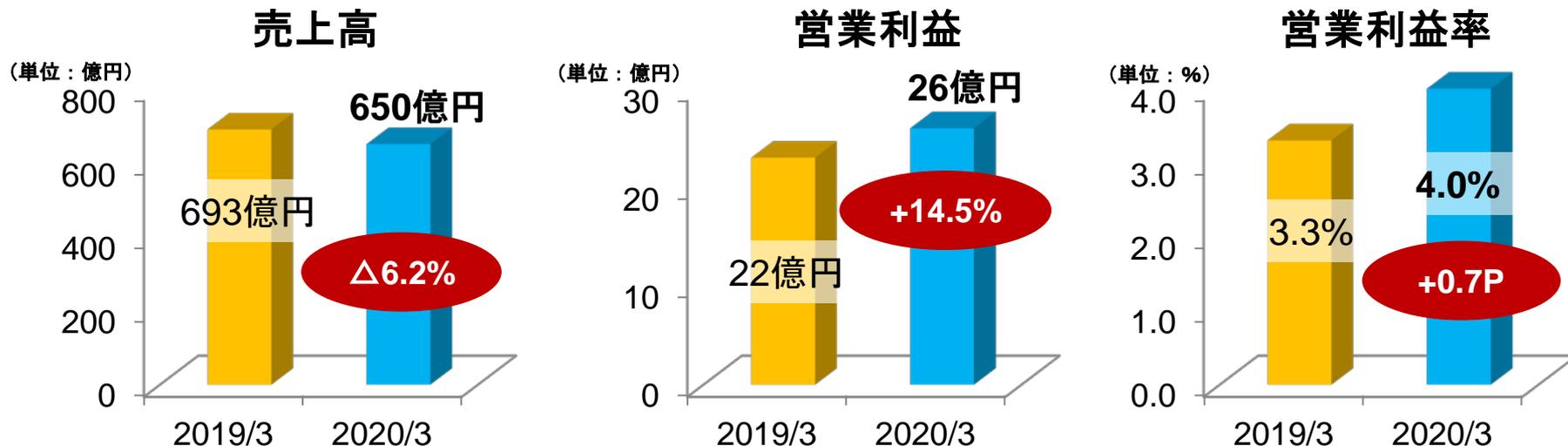
増収、営業利益は前期並み



- ・首都圏を中心に需要は底堅く推移
- ・新設事業、アフターマーケット事業ともに増収
- ・保守事業でデジタル化投資。営業利益は前期並み

3-2. セグメント別予想(東アジア)

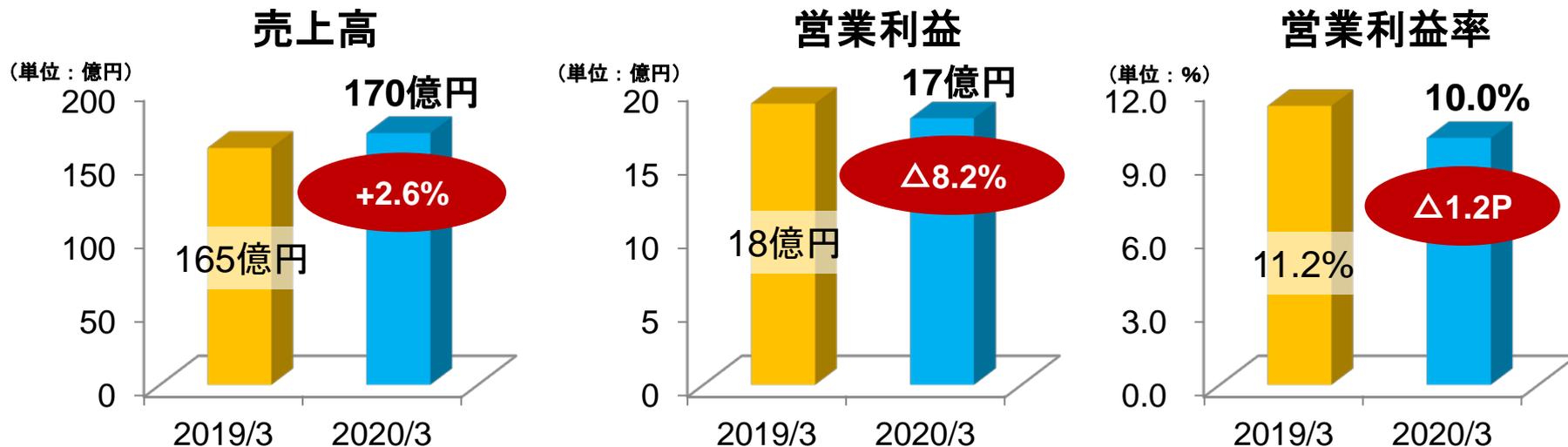
中国の影響で減収。営業利益は改善



- ・中国は価格競争続くが、受注は拡大の方針
- ・前期の中国での受注減少により減収
- ・中国は前期の水準を維持。韓国で採算改善。香港・台湾は堅調

3-2. セグメント別予想(南アジア)

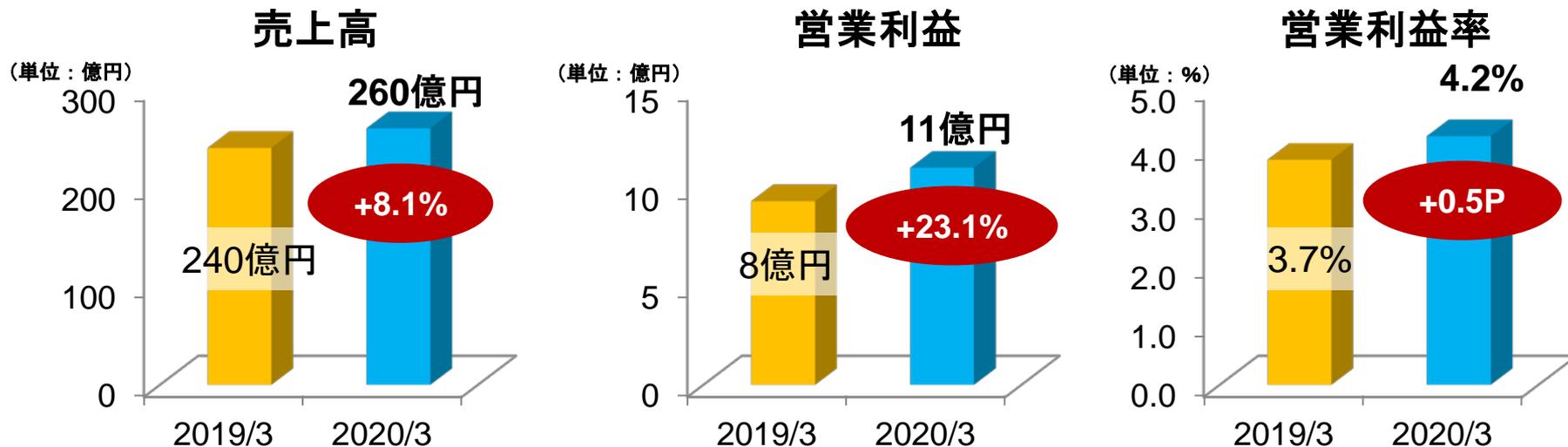
インドが牽引し増収。シンガポールが減益



- ・シンガポールは減収。人件費の増加もあり減益
- ・インドは受注拡大し大幅増収。損益も改善
- ・マレーシア、インドネシアは堅調に推移

3-2. セグメント別予想(北米・欧州)

増収増益



- ・北米は、米国・カナダともに増収増益
- ・欧州は、英国で損益ブレークイーブンを目指す

3-3. その他

設備投資・減価償却費・研究開発費・配当

(単位：百万円)

	2020/3	2019/3	増減額
設備投資額	4,600	2,912	+1,688
国内	3,000	2,160	+840
海外	1,600	752	+848
減価償却費	2,900	3,055	△155
研究開発費	2,400	2,425	△25

(単位：円)

	2020/3	2019/3	増減額
配当金	45	45	—
中間	20	20	—
期末	25	25	—

参考資料

参考資料1 連結 B/S

(単位：百万円)	2019/3末	2018/3末	増減額	備考
流動資産	131,181	127,530	+3,650	
現金及び預金	52,244	49,856	+2,387	日本、南アジア、北米での増加
受取手形及び売掛金	54,680	53,411	+1,268	日本、東アジアでの増加
棚卸資産	21,292	21,864	△572	
その他	5,003	4,500	+503	
貸倒引当金	△2,039	△2,102	+63	
固定資産	53,508	54,972	△1,464	
有形固定資産	33,948	34,388	△440	設備投資+2,721 減価償却△2,771 為替ほか△390
無形固定資産	3,874	4,029	△155	
投資その他の資産	15,684	16,553	△868	株価下落による投資有価証券の評価額減少△1,423 売却△346
総資産	184,690	182,503	+2,186	
流動負債	66,241	66,821	△580	
固定負債	4,525	3,859	+666	
純資産	113,923	111,822	+2,100	利益剰余金+1,705 自己株式+4,452 その他有価証券評価差額金△1,015 為替換算調整勘定△2,718
自己資本比率	55.7%	55.0%	+0.7P	
B P S	1,271.28円	1,243.46円	+27.82円	

参考資料2 キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2019/3	2018/3	増減額
現金及び現金同等物期首残高	24,043	20,910	+3,133
営業活動キャッシュ・フロー	9,589	11,870	△2,281
投資活動キャッシュ・フロー	△2,160	△5,345	+3,185
フリーキャッシュ・フロー	7,428	6,525	+903
財務活動キャッシュ・フロー	△4,198	△3,858	△340
現金及び現金同等物期末残高	25,902	24,043	+1,858

参考資料3 主な受注・納入実績

受注



バンクーバー国際空港拡張工事
(カナダ・ブリティッシュコロンビア州)
エレベータ・エスカレータ・オートウォーク計22台

受注



(仮称)イオンモール・ハイフォン・レ・チャン
(ベトナム・ハイフォン市)
エレベータ・エスカレータ・オートウォーク計58台

完成



ワン・ウエスト・エンド
(米国・ニューヨーク州)
エレベータ15台

完成



大手町プレイス
(日本・東京都)
エレベータ・エスカレータ計63台

社名	フジテック株式会社
設立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場)
本社	ビッグウイング 滋賀県彦根市宮田町591番地1
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資本金	125億33百万円（発行済株式数90,067,000株）
役員	代表取締役社長 内山高一 取締役：7名（うち社外3名） 監査役：4名（うち社外3名）
従業員数	連結 10,105名（個別 2,982名）
関係会社	33社（内、連結子会社18社） （米州、東アジア、南アジア、欧州・中近東）

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2019年5月24日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2019年5月24日

フジテック株式会社

2019年3月期 決算説明会資料

